

「主な取組」検証票

施策展開	2-(1)-ア	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進	
施策	①県民一体となった健康づくり活動の促進		
(施策の小項目)	○食育の推進		
主な取組	食育の推進	実施計画 記載頁	79
対応する 主な課題	○健康づくりのための取組を効果的に進めるためには、主体となる県民一人ひとりが健康の大切さを自覚して行動することが重要であると同時に、社会全体としても健康づくりを支援していくことが必要である。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	近年の食に関する諸課題の解決のため、学校給食指導者、栄養教諭、学校栄養職員等の研修会等を実施し、学校における食育の推進に関わる関係者の資質の向上を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	13回/年 研修会等 開催数				→	→	県
	食育担当教諭等を対象とした研修等の実施、学校給食指導の実施等						
担当部課	教育庁 保健体育課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
学校給食研修事業費	1,276	960	学校における食育の推進のため、栄養教諭、学校栄養職員の研修会等を30回実施した。	県単等
学校給食事業費	885	380	学校給食調理場での衛生管理の徹底を図るため、23カ所の県立学校調理場での拭取り検査と、講習会を2回実施した。学校における食育の推進のため、学校給食指導者の研修会を4回実施した。	県単等
栄養教諭育成講習事業	792	339	学校栄養職員が栄養教諭免許状を取得するための講習会を20回開設し、栄養教諭の育成を図った。	各省計上
活動指標名			計画値	実績値
研修会等開催数			13回 (25年)	36回 (25年)
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	学校給食指導者、栄養教諭、学校栄養職員等の研修会等を36回実施した結果、学校給食指導者、栄養教諭等の給食管理、食に関する指導等の資質向上に寄与することができた。 また、平成25年度栄養教諭育成講習事業においては、現職の学校栄養職員25名が、必要な単位を修得することができ、そのうち8名が栄養教諭免許状を取得することができた。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
学校給食研修事業費	1,813	学校における食育の推進のため、栄養教諭、学校栄養職員の研修会等を30回実施する。	県単等
学校給食事業費	770	学校給食調理場での衛生管理の徹底を図るため、23カ所の県立学校調理場での拭取り検査と、講習会を2回実施する。	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

学校における食育推進のために「児童生徒の朝食欠食率の改善」を掲げるように促し、研修会等の充実を図った。
 平成25年度栄養教諭育成講習事業において、現職の学校栄養職員25名が、必要な単位を修得することができ、そのうち8名が栄養教諭免許状を取得することができた。
 福祉保健部健康増進課等と連携を図り、食育推進を図った。
 学校給食会、学校栄養士会と協力し、学校給食週間(1月)に学校給食と食育の展示を県民ホールで実施し、食堂で給食メニューの提供を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
毎日朝食を摂取する児童生徒の割合(小中高)	82.3%(23年)	81.3%(24年)	82.6%(25年)	↗	87.1%(25年)(小中学校)
状況説明	学校における食育を推進していく事で、家庭で朝食を摂る大切さが、少しずつ浸透してきている。小中学校は、微増微減を繰り返しており、横ばい状態。高校生の朝食欠食が改善傾向にある。全国と比較すると、小学校で1.0ポイント、2.2ポイント低い状況。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・本県の朝食を食べない人の割合は、男性が30歳代(35%)、女性が40歳代(29.7%)で最も高くなっている。特に子育て世代である40歳代女性の全国との差は13.7ポイントもあり、児童生徒の摂食率に大きくその影響していると思われる。朝食の重要性を学校から家庭に発信しているが、徹底を図るのは難しい状況がある。
 ・本県の肥満者の割合は男女ともに全国平均を大きく上回っており、男性は20歳代から3割を超え、女性は40歳代で3割近くになり年代とともに増加している。そのため、児童生徒の肥満や食物アレルギーなどの健康問題について「個別指導」の充実を図る必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

学校給食指導者研修会において、朝食摂取の重要性(学力、体力との相関関係)について資料提供等を行い、学校から、朝食を摂ることの大切さを、保護者へ更に啓発してもらうために、工夫が必要である。

4 取組の改善案(Action)

・各学校における食育の推進の指標の一つに「児童生徒の朝食欠食率の改善」を掲げるように促し朝食を摂ることの大切さを学校を通じ、保護者へ啓発していく。また、学校給食指導者研修会等を通じて、朝食摂取の重要性(学力、体力との相関関係)について資料提供と、朝食の大切さを訴える10分間ミニ指導案を配布する。
 ・福祉保健部や県医師会、学校栄養士会等と連携を図り、食育の副読本を作成し食育の推進を図る。
 ・学校給食指導者研修会で、食物アレルギー専門医による講演、栄養教諭・学校栄養職員等研修会において、食に関する健康課題(肥満・食物アレルギー等)について「個別指導」事例研究会を実施し、指導の充実を図る。
 ・栄養教諭配置における検証委員会を立ち上げ、配置における検証及び配置計画に必要な事項について検討し、配置拡充を促進する。